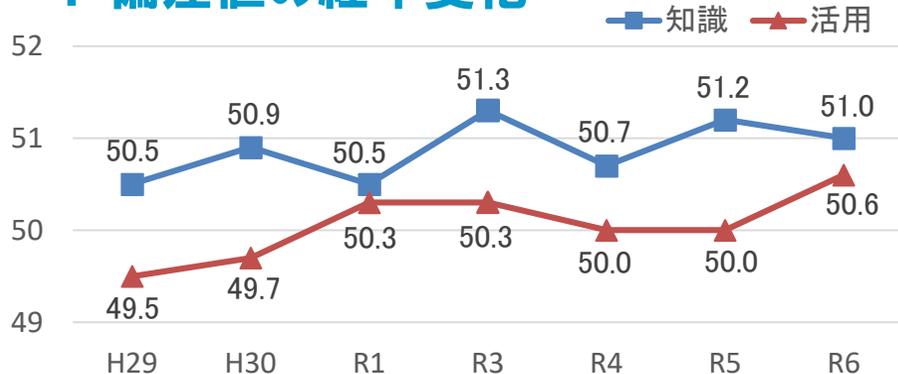


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

2 観点別の結果

観 点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	56.3	53.9	55.0
思考・判断・表現	45.4	44.4	44.6
主体的に学習に取り組む態度	41.7	40.4	40.5

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

3 領域別の結果

領 域	県正答率	全国正答率	目標値
地理	49.6	47.8	49.0
歴史	53.6	51.8	52.0

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	52.1	50.8	51.3
短答	52.8	49.1	53.0
記述	42.6	39.7	35.0

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

つまずきが見られた問題

大問8(1) 県正答率18.6% 全国正答率20.5%

【ねらい】気候や主な宗教の理解をもとに、宗教分布図と輸出品割合のグラフから情報を読み取り、世界の諸地域の地域的特色を考察できる。

▲複数の資料を読み取り、既習内容と関連付けて、考察し、判断することに課題がある。

➡「アフリカ州」と誤答した割合49.3%

指導のポイント

★下記のどの段階でつまずいているのか実態を把握し、支援・指導していく。

①【内容を理解する】

思考を働かせながら知識を獲得するプロセスを展開し、生きて働く知識を習得できるようにする。

②【資料を読み取る】

学習指導要領P.186、187「社会的事象について調べまよめる技能」を参考に、資料を読み取る技能を身に付けるようにする。

- ・輸出品割合のグラフから全体的な傾向を読み取る。
- ・宗教分布図から必要な情報を読み取る。

③【読み取った情報と既習内容を関連付けて考察する】

地理に関わる事象の特色や相互の関連を、位置や分布などに着目して、考察できるようにする。

- ・②で読み取った情報をもとに、既習内容と関連付けながら、世界の諸地域の地域的特色を考察する。

★ 指導の具体例

②【資料を読み取る】 資料1 ある国の主な輸出品グラフ
1980年 219億ドル(輸出総額) 2021年 2315億ドル(輸出総額)



生徒A 1980年は石油が輸出品の半分以上の割合を占めているね。

生徒B 2021年は石炭、パーム油、鉄鋼、機械類など1980年のグラフには見られないものが上位になっているね。

割合・項目に着目

生徒A 2021年は輸出総額も1980年の10倍以上になっているよ。

総額に着目

先生 1980年と2021年のグラフを比較すると、どんなことが考えられるかな。

生徒B 特定の資源等の輸出に依存するモノカルチャー経済から抜けだし、工業化が進み、経済が成長したことが考えられます。

全体的な傾向を読み取り考察

③【読み取った情報と既習内容を関連付けて考察する】

先生 資料1のある国は、国土のほとんどが熱帯の国で、イスラム教を信仰している国です。右下の世界の主な宗教分布がわかる地図を参考にすると、ある国はどこの地域に位置する国と考えられますか。

生徒A 国土のほとんどが、熱帯ということは、赤道付近の国だと思うよ。

既習内容

生徒B イスラム教は、西アジアや北アフリカ、東南アジアの一部の地域に分布してるね。

情報を読み取る

先生 Aさん、Bさんの意見と資料1からわかったこと、これまでの学習を関連付けるとどんなことが考えられますか。

生徒C 以前のアフリカ州の学習で、モノカルチャー経済の国が多いこと、資料1、Aさん、Bさんの意見を踏まえると、資料1中のある国は**東南アジア**に位置している国ということが考えられます。

関連付けて考察

世界の宗教分布図(イメージ)



実際の場面ではキリスト教、仏教、イスラム教、ヒンドゥー教の分布がわかる地図を使用する。